ゆたかな心をはぐくむ

人権のひろば 158

人権教育・啓発課　☎(232)2113

「わたしと家族のつながりをみつめて」

菊陽北小学校　5年　青藤　春姫(現在6年生)

人権啓発標語

おともだちに　だいじょうぶ？って　きいてみよう

武蔵ヶ丘北小学校　1年　山田　朱理(現在2年生)

大切な家族のことをみつめ直した「ミナマタ学習」

わたしは、3年生の10月ごろから菊陽北小学校に転校してきました。以前は、宮城県に住んでいました。父の仕事の都合でふるさとをはなれることになりました。転校してすぐは、友達ができるか、環境に慣れることができるか不安でした。新型コロナウイルス感染症のこともあり、休みの日など友達と遊ぶこともなかなかできませんでした。本当は、友達の家に行って仲良くなりたいと思っていました。また、父も仕事の都合で、大阪や神戸など遠出することもあり、寂しい日もありました。それでも、わたしたちのためにがんばる父の体調を心配することもありました。

5年生の人権学習の中で「この子とともに」について学習することがありました。水俣病になった家族の話と自分が重なるところがありました。

家族のために、妹の面倒を見たり、母の家事の手伝いをしたり、家族を支えていることはわたしも同じです。わたしも家族に支えられています。自分にできることが家族のためになるとわたしは考えています。

わたしにとっての家族はかけがえのない存在です。

それは、『ミナマタ学習』で出てきた人たちみんなと同じだとわたしは感じました。病気だからといって幸せをうばわれるのはおかしいと思います。

そのためには、「正しくそのことについて知ること」また、「その思いを受けとめること」の大切さについて学びました。

来年はいよいよ6年生になります。今わたしのまわりの友達や家族はとてもかけがえのない大切なものです。『ミナマタ学習』での学びを大切になかまと、家族のつながりをもっと深めていきます。

先生より

水俣病になった家族へ投げかけられた言葉に春姫さんも自分のことのように考えていましたね。支え合う家族の大切さ、大切なことを見ることの大切さについて学んでいますね。これからも家族やなかまとのつながりについて考えていきましょう。

それを必要とするひとはあなたの中にいますか

～「障害者差別解消法」施行から５年の今～

昨年11月に完成した防災センターの入り口の案内掲示には点字の案内、トイレにはバリアフリートイレ、階段には点字ブロックが設置されています。視覚障がい者の人の歩行の安全と利便を図ることを目的に町内の歩道や店舗前にも点字ブロックが整備されています。視覚障がい者の人は、白杖(はくじょう)で触れたり、足で踏んだりすることによって点字ブロックの存在を感知しています。外出、移動の重要な情報源です。しかし、点字ブロックを必要としない人がスマホを見ながら点字ブロックの上を歩くことで、点字ブロックの利用者と衝突し救急搬送されたり白杖が折れたりする**「点ブロスマホ」問題**が起きています。スマホを操作しながら点字ブロックの上を歩くひとは「無意識で」「何も気にしないで歩いていた」そうです。町の商業施設の状況を観察すると１時間に８人の人がスマホを操作しながら出入りしていました。視覚障がい者に欠かせない「道しるべ」の点字ブロック。物理的配慮はされていますが、**それを必要とするひとのこと**も考えてみたいですね。

町内の店舗前の点字ブロック

学校だより 49

菊陽北小学校

増築校舎が完成しました

菊陽北小学校は、ここ数年で児童数が大幅に増加しており、それに伴い、昨年度、校舎の増築工事を行いました。

この校舎は、今年3月に完成し、学年末・学年始休業日の間に、机やいす、電子黒板などを各教室に運び入れ、令和4年度の始業式の日には、子どもたちが登校し、続々と新しい校舎へと入っていきました。教室は、通常学級と特別支援学級を含め、全部で12教室あり、木の香り漂う真新しい教室で、子どもたちは、毎日、集中して学習に取り組んでいます。

完成した増築校舎

きくよう文芸 4月

菊陽句会報

嚏(さえずり)や戦コロナは余所(よそ)のこと　紫藤　祥子

ウイルスや束縛重き桜時　曽我　育代

訪ふ人ごと褒めて佇(たたず)む芝桜　曽我トモ子

春限りこぎ行く舟の見ゆる迄　緒方チエ子

残酷な夢でありたい春戦争　米山ルミ子

塩加減漬け加減よし新高菜　吉田　幸子

さ蕨のあの山が呼ぶ目覚かな　木村　信子

春光やおかっぱ頭に天使の輪　財津　早雪

菜の花や列車終日お見送り　原野レイ子

満面の笑みをこぼしてチューリップ　寺尾千代子

竹林に牛の声聞く春の昼　高橋　孝子

ウオーキング桜蘂(しべ)降る女坂　田中　郁子

いちめんのなの花風にかたぐるま　北川しんじ

霾(つちぶ)るや戦禍のニュース日に幾度　佐藤　澄世

短歌会

裏庭に蕗(ふき)の薹(とう)の芽ただ一つ摘まずにあればによつきりと伸ぶ　有久　賢治

朝取りのコーン収穫まではあと十日午前五時起床の練習始む　梅田　國雄

立ち昇る阿蘇の煙はゆるやかに南に流れて明日も晴れむか　佐藤せい子

純白のバラのアーチに佇めば香りの精に吾は包まる　田中　成美

花終えし椿は新芽伸ばしきて古葉は全て地に積もりおり　中村トシエ

朝光(あさかげ)の中に立ちたる桜木の花散り敷くをしばし眺めむ　馬場　礼子

黄の蕾(つぼみ)もう開きそうと近寄りて共におさげとミモザを仰ぐ　松本　東亜